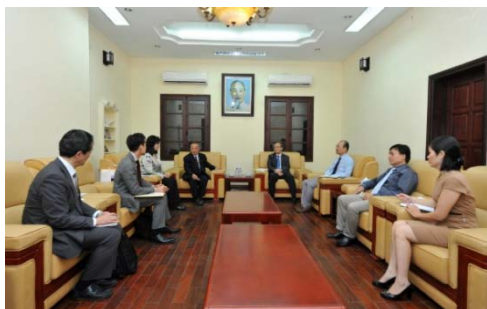




Vuong Bich Thang 局長は日本国際親善協会 (JIFA) を歓迎

ベトナム文化・スポーツ・観光省スポーツ総局
WEBニュース 2016年4月27日

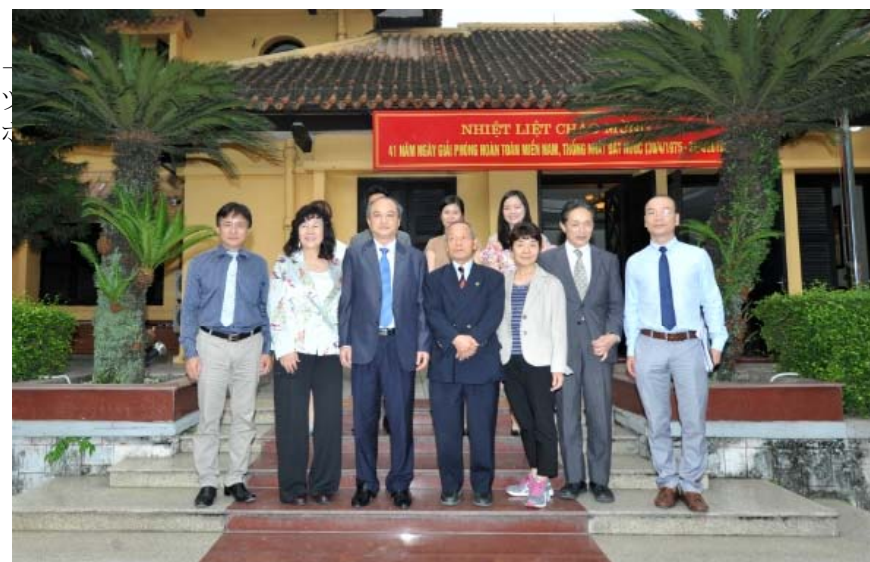
2016年4月27日の午後、ハノイで、スポーツ総局長Vuong Bich Thang は池田節子理事長並びに日本国際親善協会及びIPMの皆様を迎えて、会議を行いました。訪問団体の中に、東京とメキシコのオリンピックでゴールドメダルを獲得した選手 (JIFAの理事) である三宅義信氏がいらっしゃいます。



会議の始めに、池田節子様はスポーツ総局の幹部は時間を割いて、心遣いに厚く歓迎することに感謝しました。池田節子様によりますと、JIFAは2010年よりベトナムで慈善活動を行ってきました。2011年度、ハーティン省に三宅義信様が訪問し、健康についての話をしました。2014年度、JIFAはベトナム大使館と文化・スポーツ交流会を開き、両国の文化・スポーツ交流の促進に貢献しました。このイベントに、三宅氏は重量挙げについて子どもたちに紹介しました。

今回の来越で、三宅氏は「オリンピックにかけた人生～心・体・技～」について学生と話し、ダナン国立スポーツ訓練センターでベトナム選手たちとの交流会を通じてウェイトリフティングの技能の共有とゴールドメダル育てる会の紹介をされます。

ゴールドメダリスト育てる会に関しては、三宅義信氏によりますと、選手は愛・心・幸甚があるのは大切です。この3つの要素がないと、オリンピックのメダルを獲得できません。



写真(バンズイ) Vuong Bich Thang総局長は今後スポーツ総局とJIFAは良い関係を支持し、さらに発展することに期待しています。

オリンピック2020年まで、ベトナムスポーツは日本に見学、訓練しに行く選手を発する予定があります。また、ベトナムの体力の向上の提案を実施する際、スポーツ分野における日本の経験は非常に大切です。

Vuong Bich Thang総局長は今回の機会を通じてJIFAはベトナム若い選手にオリンピック2020年に向けてスポーツ訓練の熱心を伝え、よりよい成績が出来るよう期待しています。

Vuong Bich Thang総局長はスポーツ総局とJIFAの関係を継続的に発展することを望んでいます。両方の関係を促進するための環境を整えます。